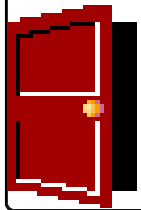


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年6月10日 文責 渡邊

6月6日(月)の読書通信で、「借りてきた本公開ゲーム」(『読書する家族のつくりかた』印南敦史著 星海社)の紹介をしました。早速、保護者の方から貴重なご意見が寄せられたので紹介いたします。

今回も、読書をゲーム化するという考え方、素敵ですね！私も2週間に1度、娘2人と一緒に函南町立図書館に通っています。子供たちは1階へ、私は2階へ行き、それぞれ好きな本を借りて、また、2週間後に返却というサイクルができあがっています。そして、毎回借りた本をお互いに見せ合うという恒例行事もあります。(笑)子供たちがどんな本を選んだのかを見るのが楽しみで、絵がおもしろかったから選んだのだろうとか、題名に興味のある単語が入っていたからだろうなと思うと、笑ってしまいます。そして、それはだいたい当たっています。本を通して楽しい会話が広がりますね。(6年生保護者)

素敵なお家族ですね。図書館に親子で通われるのは、お子さんにとっても貴重な経験になることと思います。そして、何よりも「会話が広がる」というところがたいへんすばらしく思いました。

今、『LINEで子どもがバカになる「日本語」大崩壊』(矢野耕平著 講談社 2016年)を読んでいます。その中で著者は次のように記しています。

LINEは閉鎖的な空間を構築することができる。言い換えれば、内輪の言語のみで成立する場なのである。(中略)わたしが危惧しているのは、小中高生の「生の会話」がLINE化していることである。語彙力も十分に備わっていない子どもたちがLINEにどっぷりと浸かってしまうと、彼ら彼女たちの会話にまで、その内輪的な感覚が持ちこまれてしまうのだ。

情報機器がいかに発達しようと、親子で直接会話を交わすのはとても重要なことであると思います。図書館で本を借り、お互い感じたことを自分の言葉で表現することをこれからも大切にしてほしいです。ご意見をお寄せくださりありがとうございました。

さて、次は、5年生の保護者からいただいた意見を紹介します。

私が幼稚園で読み聞かせをするための絵本や大型絵本、紙芝居を借りてくると、子供たちはいつも興味津々で、読み聞かせごっこをしたり、静かに読んだりしています。私が読み聞かせをしているからではなく、本を読むことが好きなのだと思います。たまに、「読み聞かせをやっているから？」と言われますが、興味がなければ親のやっていることなど関係ないのではないかと思います。

「借りてきた本公開ゲーム」は、楽しそうですね。我が家では、前から似たような感じで本を借りています。各人が好きな本、目に入った本を借りてくるので、家に帰ってからみんなで話したり、貸し借りしたりするのが楽しいです。私が知らない絵本の世界がそこにあり、子供とそれが共感し合えるのはとてもいいことであり、今しかできないことだと思います。(5年生保護者)

紹介させていただいたご家庭では、「借りてきた本公開ゲーム」を既に行っていることが伝わってきました。とても素敵なお家族であると思います。

寄せられた意見の最後に、「私が知らない絵本の世界がそこにあり、子供とそれが共感し合えるのはとてもいいことであり、今しかできないことだと思います。」と記されています。本当にそうなのだと私も思います。お子さんが、小学生のこの時期に、いかにお子さんと触れ合い、大切な時間を共に過ごすのか。ここが大切なことです。

それぞれの家庭で事情は異なります。各ご家庭に合った方法で、お子さんと共に楽しい時間を過ごしていただけたらと願います。ご意見をありがとうございました。

続いて、3年生の保護者からいただいた意見です。

「読書をゲーム化」について、次に図書館に行った際にやってみます。我が家は主人と子供の休みが合うことがめったにないため、休日は母と子で定期的に図書館に行くことを意識しています。最近、子供たちの図書カードを作ったので、それぞれのカードに印字されるのが楽しみです。子供がカードを紛失しそうですが、他の子供たちはどうやってカードを持ってきているか知りたいです。(3年生保護者)

お父さんの仕事の関係で、休日はお母さんとお子さんで過ごすことが多いとのこと。そうした中、定期的に親子で町の図書館に行かれていることは素敵なおことであると思います。

さて、お子さんのカードの所有の仕方について、「カードの紛失」が心配されることが最後に記されています。「こうしてはどうですか」等のみなさんのアイデアを聞かせていただければと思います。よろしくお願いします。

ご意見をありがとうございました。

最後に、6年生の保護者からいただいた意見です。

時々、市の図書館へ子供と行くことがありました。懐かしい本や新しいジャンルにも出会えましたし、自主学習をする時には、本で調べながら勉強したこともあり、良い思い出になっています。静かな空間が確保されていて、かなり集中できたと思います。慌ただしい毎日なので、そんな安らかな時間は、今では贅沢とさえ感じます。(6年生保護者)

市や町の図書館では、読書センターの機能とともに、学習センターの機能もあり、静かな空間の中で集中して学習することができます。私も学生だった頃、よく利用したことを覚えています。子供たちもいろいろな図書館の機能を知っておくことも大切ですね。

ご意見をありがとうございました。

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」(6月10日号)を読んでの感想

( )年( )